

7年産

「冬至用南瓜（あまほく）」栽培基準

品 種 名	あまほく
目 標 粗 原 反 収	1,750kg
目 標 製 品 反 収	1,580kg
播 種 時 期	4月下旬～5月中旬
定 植 時 期	5月下旬～6月中旬
収 穫 時 期	9月中旬～10月下旬

	2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
基本作業						播種床準備				播 種																				
										育苗、苗ぐらし					防 除															
										圃場準備・施肥											収穫作業									
											定 植											キュアリング								
												被 覆				整枝・着果管理														

【施肥基準】

肥 料 名		施用量 (kg/10a)	要素量(kg/10a)			
			窒素		リン酸	加里
			N	ON		
①	S131	65kg	6.5	—	19.5	6.5
	発酵ケイフンペレット2号(有機質肥料)	150kg	6.5		4.5	4.5
			—	4.5		
	合 計		11.0		24.0	11.0
②	DdS036 (有機質入り緩効性肥料)	110kg	5.06	5.94	14.3	6.6
			11.0			
	合 計		11.0		14.3	6.6

【栽培上の注意点】

- ① 草勢が劣ると収量に影響があるので、適正な施肥量及びうどんこ病の対策は十分に実施する。特に酸性土壌では生育が劣るので注意する。
- ② うどんこ病が蔓延すると、葉が枯れ日焼け果が発生するので、予防防除に努める。特に高温乾燥で蔓延するので注意する。
- ③ 貯蔵中の腐敗要因である「つる枯病」に弱いので、開花後20～30日後に薬剤散布を実施する。(例:5月下旬定植で 7月下旬～8月上旬頃)

【農薬使用基準】

項目	適用病虫害名	農 薬 名	使用濃度 (倍)	10a当り薬量 (水100ℓ)	適正使用基準		RAC コード
殺虫剤	アブラムシ類	モスピランSL液剤	2,000	50ml	前日	2	I:4A
	ハダニ類	ニッソラン水和剤	2,000	50g	前日	2	I:10A
殺菌剤	うどんこ病	イオウフロアブル	500	200ml	—	—	F:M2
		ベルコート水和剤	1,000	100g	7日	4	F:M7
	うどんこ病・つる枯病	アフエツフロアブル	2,000	50ml	前日	3	F:7
	うどんこ病・黒班病 つる枯病	ダコニールエース	1,500	66ml	7日	3	F:M5
	うどんこ病・べと病	ストロビーフロアブル	3,000	33ml	前日	3	F:11
	果実斑点細菌病	コサイド3000	2,000	50g	—	—	F:M1
	うどんこ病・べと病 果実斑点細菌病	イデクリーン水和剤(硫黄・銅)	500	200g	—	—	F:M1 F:M2

※「あまほく」はエコ基準ではありません。窒素施肥量及び農薬の防除回数の制限(除草剤を含む)はありません。但し、「メルヘン」と同一圃場で栽培している場合、防除薬剤の飛散に注意してください。

【つる枯病対策】

1. 連作をすると発病が増加するので輪作を実施する。
2. 収穫切り離し後の果実は圃場に放置しない。
3. 湿度が低いほど「つる枯病」の発病低減効果があるので、収穫後速やかにキュアリングを実施する。